

河南町文化財調査報告第1冊

一須賀古墳群P支群発掘調査報告書

1983年 3 月

河南町教育委員会

は し が き

河南町は、金剛、葛城、二上山の山並のふもとに自然と歴史に培われ開けてきました。

それは古くから近飛鳥地方と呼ばれる一角にあって、まさに人々の生活の痕跡が随所に残され、わが郷土の誇りとするところであります。

しかし、近年めまぐるしい高度経済成長の中、本町でも開発の波がおしよせ、多くの遺跡が失なわれてきました。

今回調査した一須賀古墳群P支群は、土砂採取により調査を実施したのですが、全面発掘を実施したP-3号墳を除き、今回の調査では新たに確認した古墳と支群の保存という成果をあげることができました。

なお近い将来、一須賀古墳群は大阪府が史跡公園（風土記の丘）として整備され、資料館も建設される予定です。

最後になりましたが、本調査に参加いただいた諸氏の労に感謝するとともに種々の指導をあおいだ大阪府教育委員会をはじめ、関係者各位に厚くお礼申し上げます。

河南町教育委員会

教育長 奥 堅 一 郎

例 言

1. 本書は、大阪府南河内郡河南町大字平石 102番地に所在する一須賀古墳群P支群の発掘調査の報告書である。

2. 調査は、大阪府教育委員会文化財保護課技師山本 彰氏の指導のもとに本町教育委員会指導課木下光弘が担当者として実施し、昭和56年2月18日に着手し、同年3月16日に終了した。

調査の実施にあたっては、阿南辰秀、田中龍男、上田 睦、山上弘、伊藤慎司、田中淳司、田村充徳、河野詠子、染川佳美、奥野由美、神原貞美の諸氏の参加協力を得ました。記して感謝いたします。

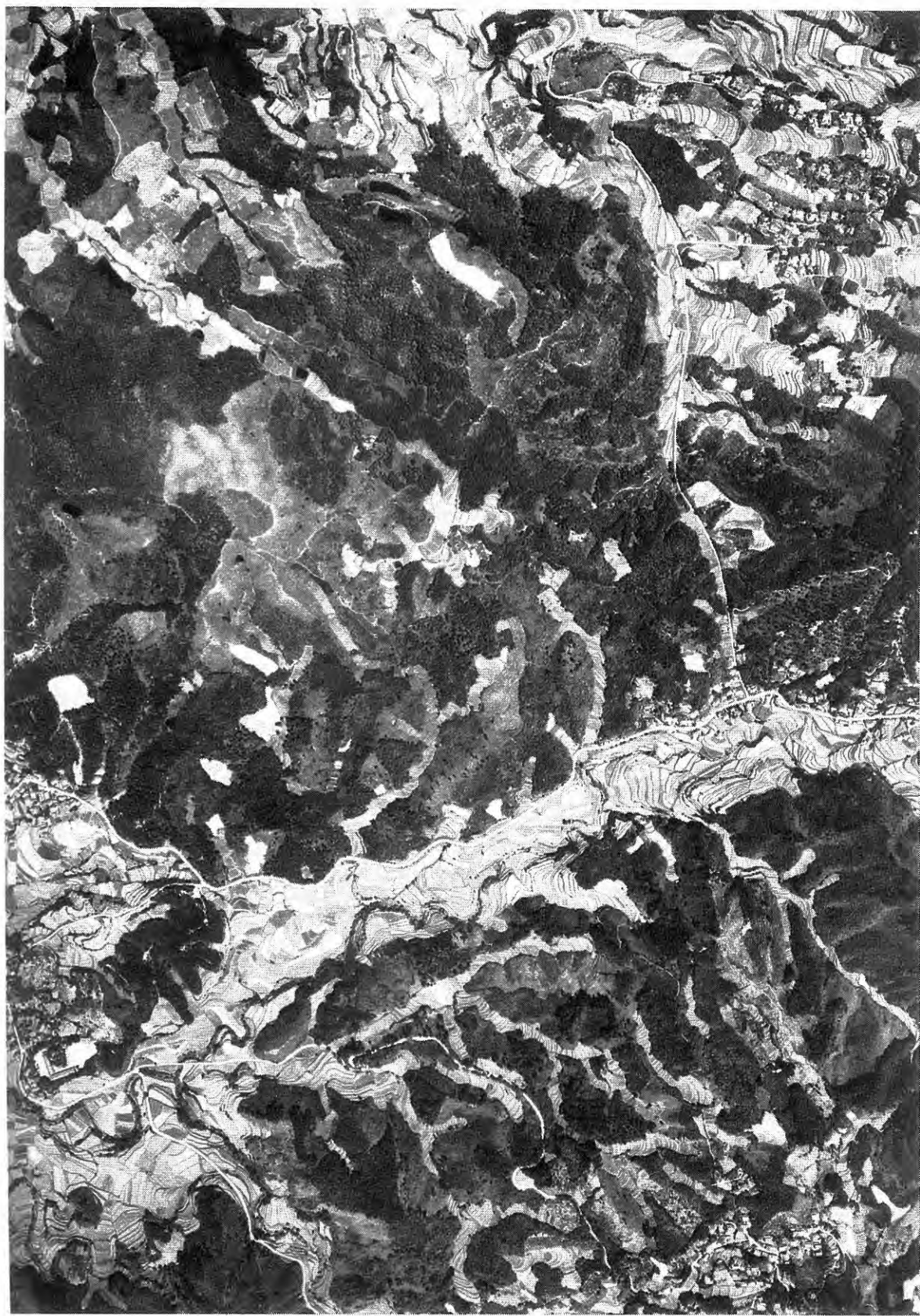
3. 本報告書作成にあたっては、調査参加者が起稿を分担したが既応の調査については大阪府教育委員会玉井 功氏に依頼した。

なお、文責は文末に掲げ編集は、山本 彰氏に依頼した。

圖

版

図版第一 一須賀古墳群P支群周辺航空写真

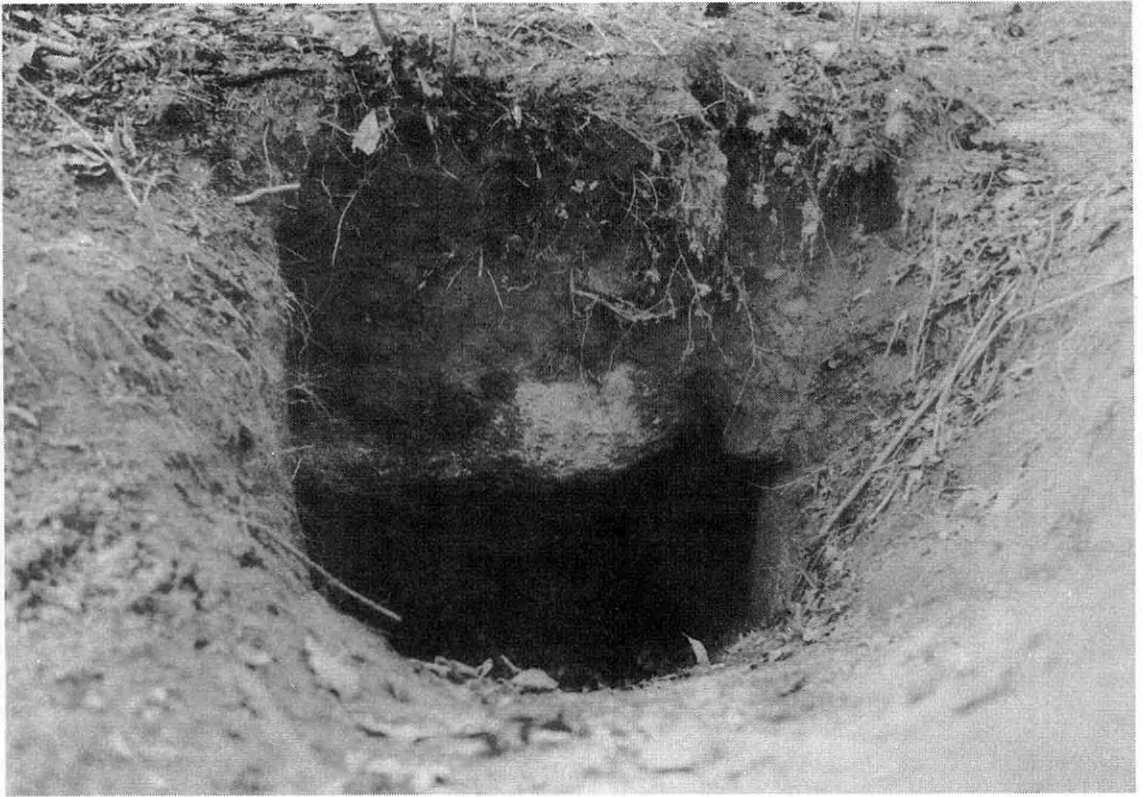




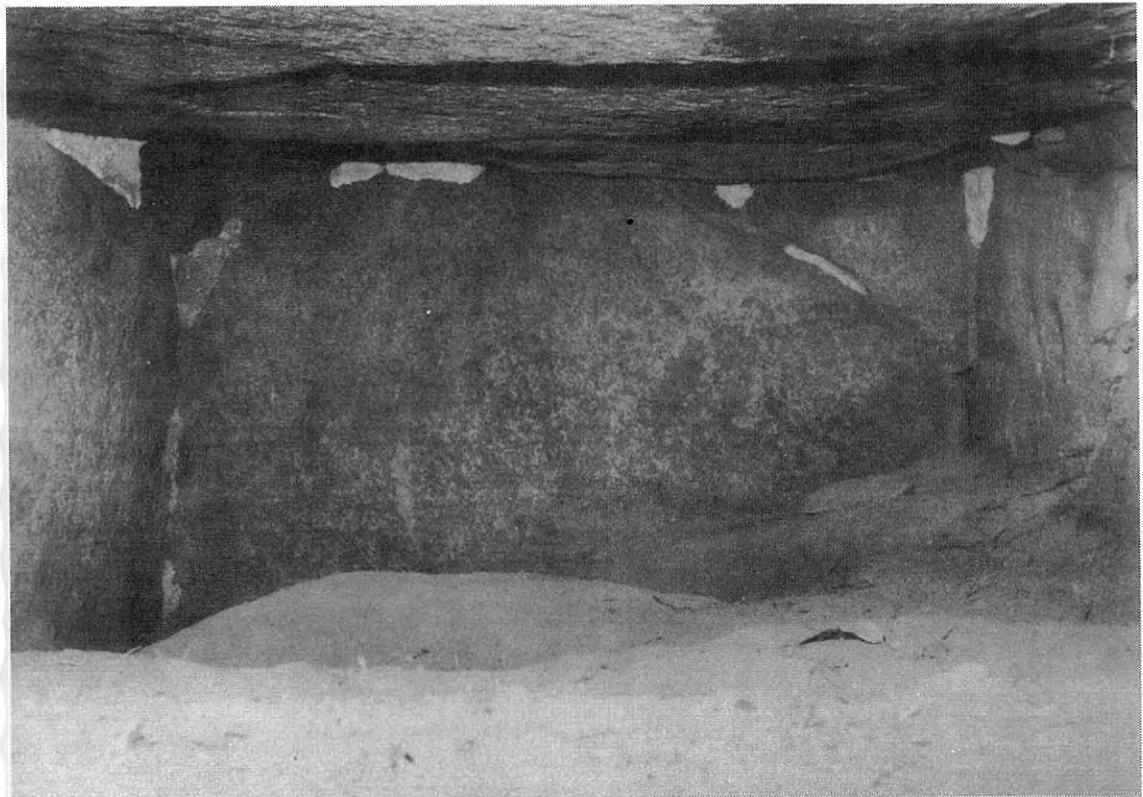
P-2号墳墳丘 (北から)



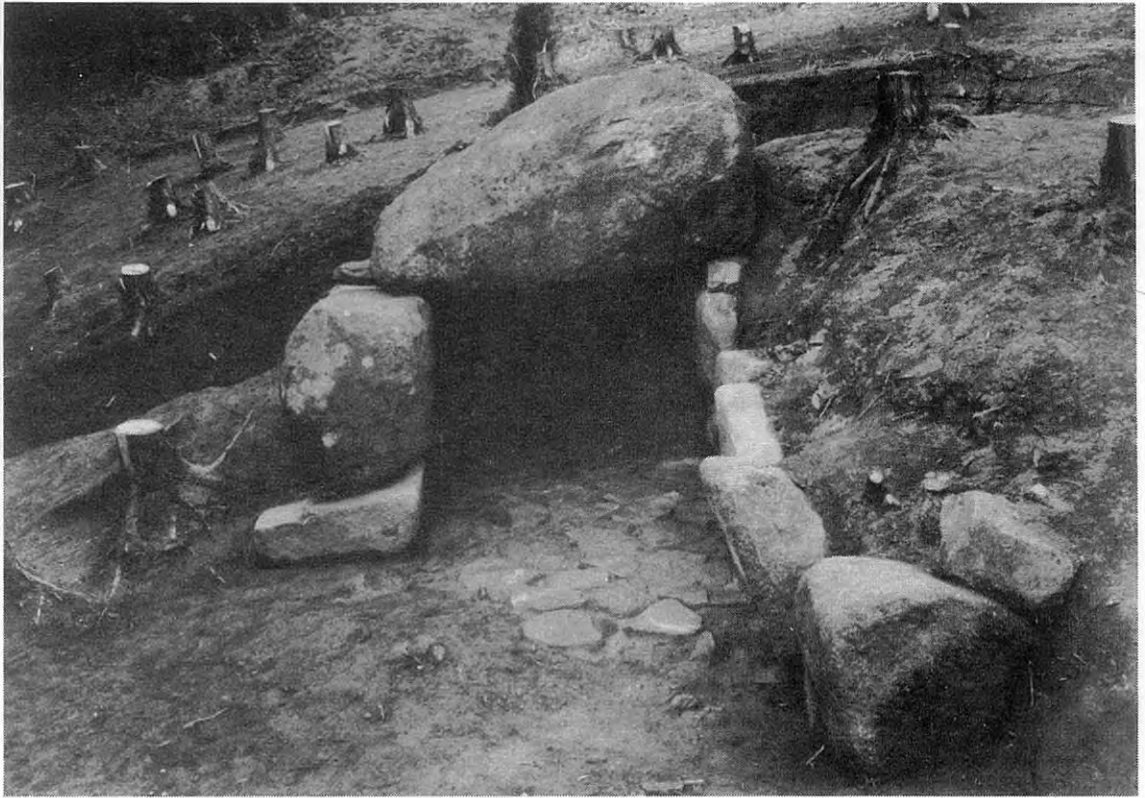
同上 (西から)



P-2号墳石室開口部 (南から)



P-2号墳石室内部 (南から)



P-3号墳石敷 (南から)



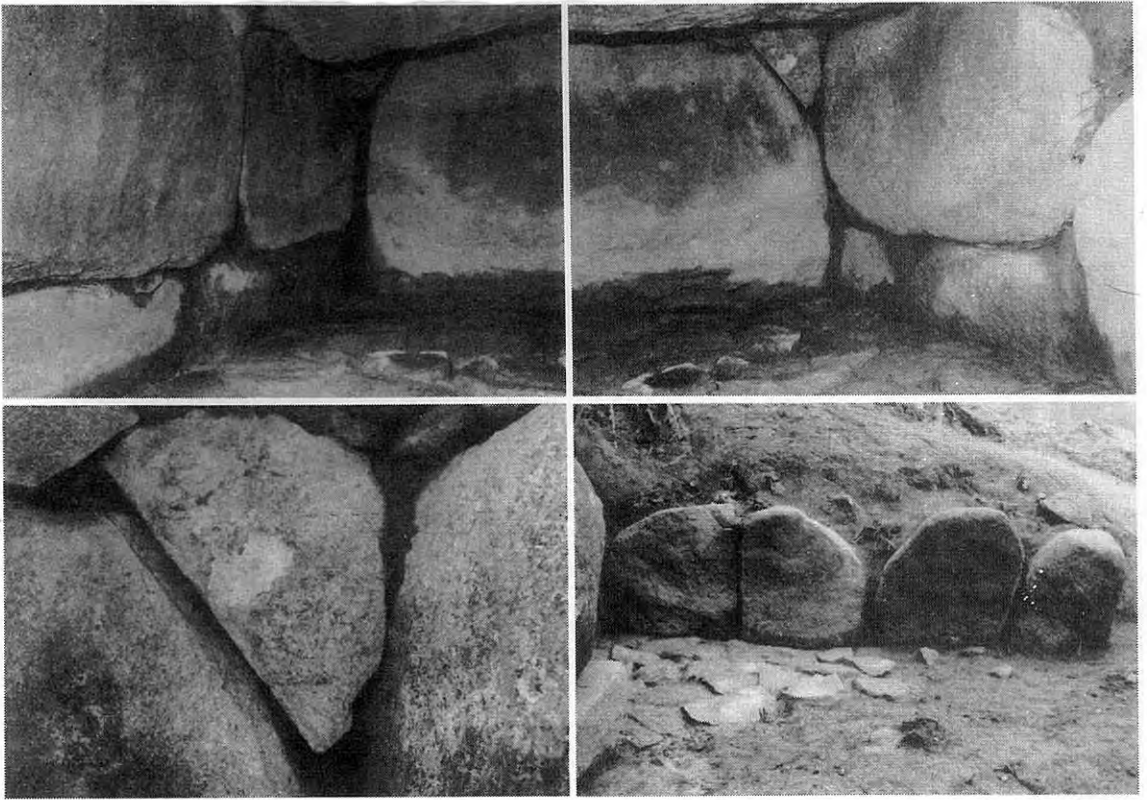
同上細部 (南から)



P-3号墳石室西側掘方断面 (南から)



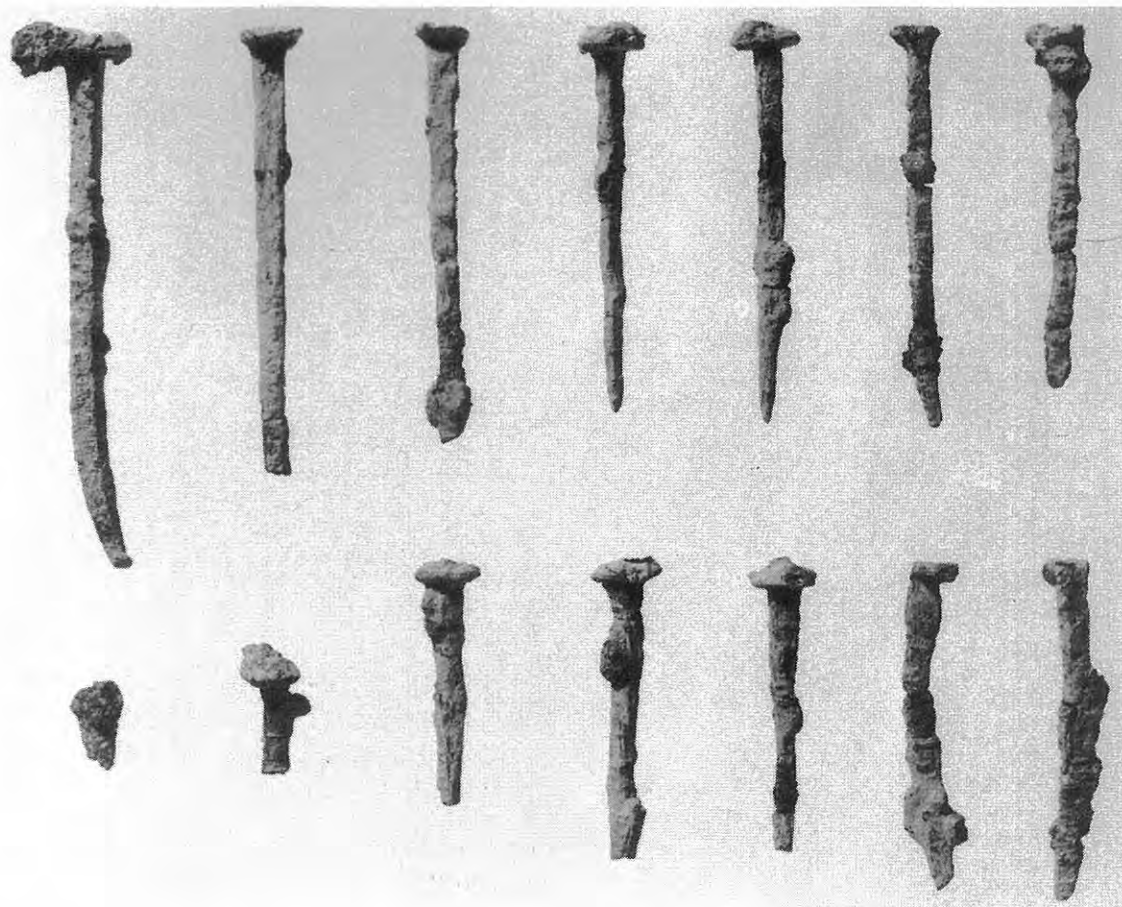
P-3号墳調査後の墳丘 (北から)



P-3号墳石組細部



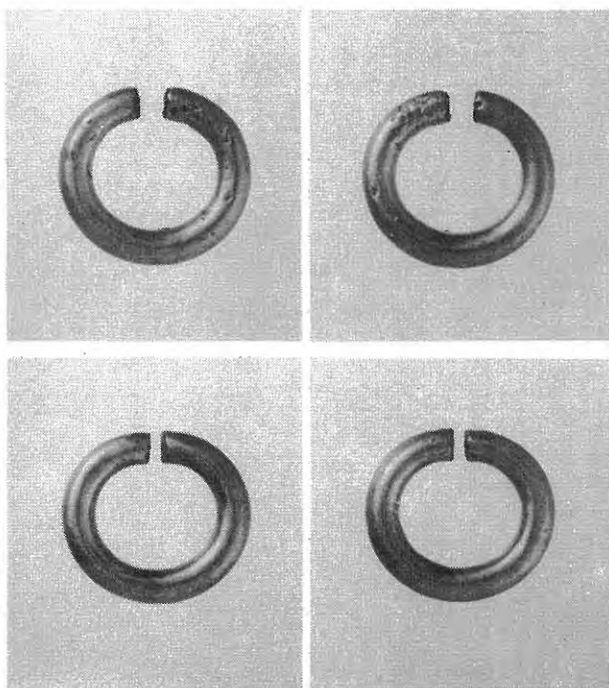
P-3号墳調査後 (南西から)



P-3号墳出土鉄釘



P-3号墳金環出土状況



P-3号墳出土金環